

横井小楠の肥後熊本藩門弟（弟子・孫弟子）関係図

横井小楠

肥後医学

実学党

学校党

肥後勤王党

高橋正純
野中宗育
寺倉秋堤
高橋春圃
奥山静叔
中山至謙
内藤泰吉

下津休也
荻昌国
元田永孚
長岡監物

1841年研究会発足

井上毅
木下躰村

轟武兵衛
宮部鼎蔵
河上彦斎
長島三平
林桜園

門弟

隣家

門弟以外

宮川房之
安場保和
横井佐平太(甥)
横井太平(甥)
岩男敏貞
細川護久(県知事)
細川護美(大参事)
駒井権之助

弥富千左衛門

城野静軒
木下初太郎

徳富一敬(蘇峰・蘆花の父)
竹崎律次郎
矢島源助
長野濬平
江口純三郎
山田武甫

一八七九年発足
本県会の指導者
自由民権運動指導

熊本バンド: L.L.ジェーンズの影響を受けてキリスト教に入信した青年たちをいう。

◇印は反熊本バンド派

古城医学校

熊本洋学校

内藤泰吉
奥山静叔
中山至謙
高橋正直
田代文基
濱田玄達
緒方正規
竹崎藤樹
福田恭敬
北里柴三郎

教師

神足基培
桑原丘為
山田謙次
上塚豊
横井時敬
岡田源太郎
徳富蘇峰
大島徳四郎
市原盛宏
浮田和民
下村孝太郎
不破唯次郎
森田久万人
宮川経輝
海老名弾正
金森通倫
伊勢時雄

明治維新後、佐賀藩が蒸気機関の開発、薩摩藩が溶鉱炉の製造と西洋式産業の育成で近代化を図ったのに対し、熊本藩は教育での近代化を目指しました。その一環としてつくられたのが「古城医学校」と「熊本洋学校」でした。熊本洋学校には米国の退役軍人ジェーンズが、古城医学校にはオランダ人軍医マンスフェルトが招かれました。

熊本英学校

熊本女学校

大江義塾

村上文也
日野熊蔵
竹崎八十雄
石坂音二郎
上塚周平
福田令寿
内村鑑三
柏木義円
徳富蘆花
奥村禎次郎
蔵原惟郭
海老名弾正

教師

高群逸枝
福田令寿
竹崎順子

教師

曾我部四郎
徳永規矩
徳富蘆花
上塚真熊
人見一太郎
奥村禎次郎
戸田直清
戸田充
上田易治
戸波易治
福島綱雄
徳富一敬
徳富蘇峰

教師

- 初代校長 - 海老名弾正 (第8代同志社総長)
- 2代 - 蔵原惟郭 (元衆議院議員)

徳富蘇峰が1880年に同志社英学校を退学して家族が住んでいた熊本県飽託郡大江村(後の熊本市大江)に戻った後、1882年3月に自宅で開いた私塾。